

3号機 補助建屋中地下 1階における水漏れについて (続報)

平成 17 年 1 月 13 日

平成 17 年 1 月 5 日午前 11 時 05 分頃、運転中の 3 号機の補助建屋中地下 1 階（放射線管理区域内）において、停止中の濃縮装置循環ポンプ（B）（ 1 ）に接続する弁の保温材から、わずかな水の漏えい（数秒に 1 滴程度）を発見しました。

漏えいの状況を確認したところ、漏えい量は約 2 リットルでした。当該弁の開操作（ 2 ）により、漏えいは午後 12 時 09 分に止まりました。

保温材を外し点検した結果、当該弁の蓋と弁棒の隙間に漏えいした跡が確認されました。

漏れた水に含まれる放射能は約 3 6 0 0 ベクレルであり、国への報告基準（370万ベクレル）の約 1000 分の 1 でした。

外部への放射能の影響はありませんでした。

（平成 17 年 1 月 5 日お知らせ済み）

1 月 6 日より当該弁の分解点検を実施しましたが、異常は認められませんでした。原因は、弁の操作時に一時的に微小な異物がシール部に入り込み、わずかな隙間ができたためと推定しました。

当該弁のシール部品の交換及び内部清掃を行い、漏えいのないことを確認して、昨日（1月12日）復旧しました。

- 1 発電所で発生する液体廃棄物を所内ボイラーの蒸気により蒸発濃縮処理を行う際に、液体廃棄物を装置（加熱器及び蒸発缶）内で循環させるポンプ。
- 2 当該弁は通常開状態にしていますが、点検のため閉止していました。

以上

濃縮装置（B）系統概略図

